

報道関係各位

株式会社 共立総合研究所

第17回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

株式会社 共立総合研究所(大垣市郭町 2-25 取締役社長 森秀嗣)は、標題のアンケートの結果を取りまとめましたのでご紹介します。

《要約》

2014年の主婦の景況感は、アベノミクスの効果で大きく改善した2013年から一転して大きく後退し、消費税増税に加えて、円安に伴う輸入価格の上昇から「食料」、「光熱費」を中心に家計支出が増え、物価上昇が強く意識された。2014年後半、消費税増税の反動減の影響から個人消費の回復が遅れたことと一致する結果となった。

1. 主婦の景況感は大きく後退した。

- ・主婦の景況感D. I. (景気が「良くなった」－景気が「悪くなった」の回答率の差)は▲2.9%ポイントから▲26.1%ポイントに大幅に悪化。
- ・家計収入は「増えた」が2013年から+2.1%増えて13.7%となる一方で、家計支出も消費税増税や円安に伴う輸入価格の上昇から「食費」や「光熱・水道費」を中心に増えた。

2. 物価上昇が強く意識された。

- ・物価D. I. (物価が「高くなった」－物価が「安くなった」の回答率の差)は前年に引き続き上昇し83.2%ポイントに。
- ・消費税増税とともに、アベノミクスの金融緩和に伴う円安での輸入価格の上昇で物価上昇が強く意識された。

【調査概要】

1. 調査期間：2014年11月25日～12月1日
2. 調査方法：大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（*）798名にアンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
3. 有効回答者数：776名（有効回答率 97.2%）
4. 回答者属性：

年代	20歳代	8.5%
	30歳代	18.9%
	40歳代	30.2%
	50歳代	27.7%
	60歳以上	14.7%
住所	岐阜県	59.9%
	愛知県	37.4%
	三重県	1.8%
	滋賀県	0.8%
	その他	0.1%
就業形態	専業主婦	15.3%
	正社員・公務員・自営業	37.2%
	パートタイマー	43.7%
	内職・その他	3.7%

（*）本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

（注）数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある（以下同じ）。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部 市来 圭 TEL 0584-74-2615】

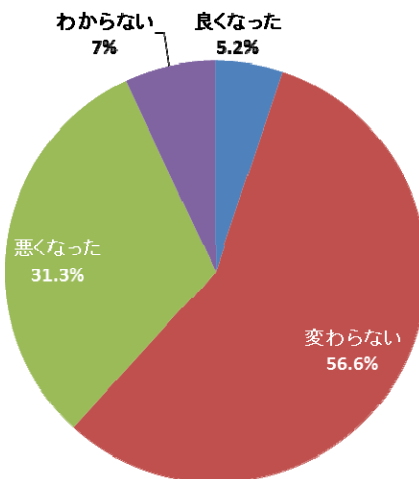
1. 主婦の景況感

「現在（2014年）の景気は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」は全体の5.2%（前年差▲6.0ポイント低下）、「悪くなった」は31.3%（前年差▲17.2ポイント上昇）となった（図表1）。

ほぼ全ての年代・住所・就業形態において、「良くなった」の回答率が低下、「悪くなった」は上昇している。唯一、60歳以上の世代において「良くなった」が0.7ポイントだけ上昇しているが、景況感はほぼ全ての属性で悪くなっている（図表2）。

景況D.I.（「良くなった」－「悪くなった」の回答率の差）は前年の▲2.9%ポイントから大幅に悪化し▲26.1%ポイントであった（図表3）。

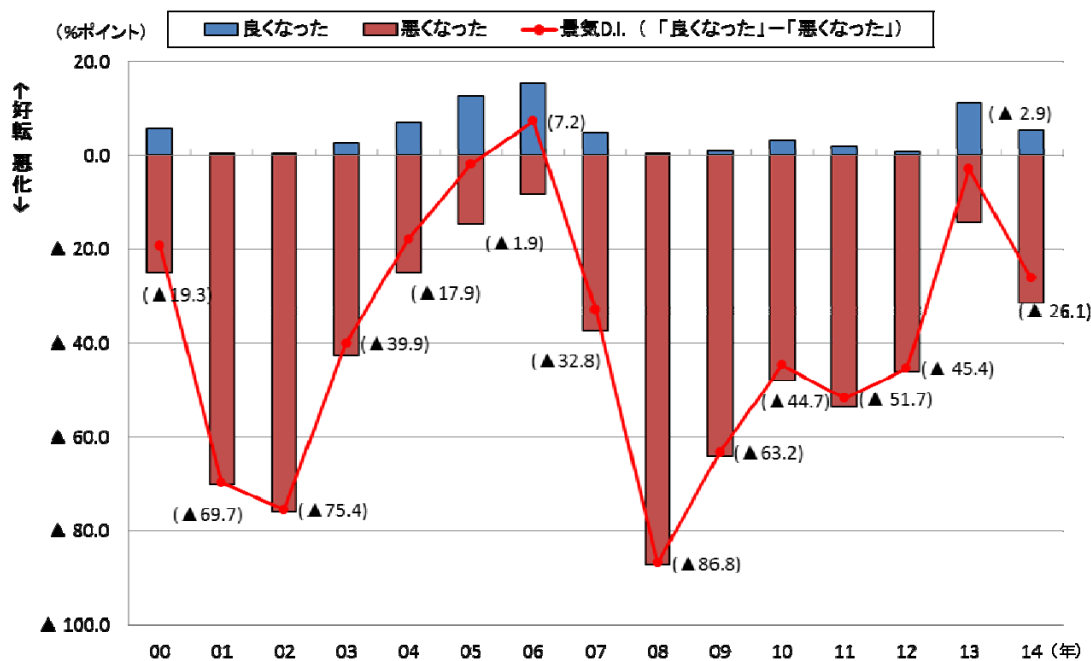
図表1：主婦の景況感（全体）



図表2：主婦の景況感（属性別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	5.2 (▲6.0)	56.6 (▲13.3)	31.3 (17.2)	7.0 (2.2)
20歳代	6.1 (▲20.9)	66.7 (5.9)	16.7 (9.9)	10.6 (5.2)
30歳代	4.1 (▲9.1)	68.7 (▲9.8)	18.4 (16.7)	8.8 (2.2)
40歳代	3.4 (▲6.3)	58.5 (▲13.3)	33.3 (18.4)	4.7 (1.1)
50歳代	7.0 (▲2.9)	49.3 (▲19.0)	35.8 (18.0)	7.9 (3.9)
60歳以上	6.1 (0.7)	44.7 (▲21.5)	43.9 (21.6)	5.3 (▲0.9)
岐阜県	5.8 (▲3.1)	54.8 (▲17.6)	33.8 (19.3)	5.6 (1.4)
愛知県	4.5 (▲10.4)	58.3 (▲7.1)	29.0 (15.1)	8.3 (2.5)
専業主婦	7.6 (▲1.0)	54.6 (▲19.5)	30.3 (20.8)	7.6 (▲0.2)
正社員	5.2 (▲10.2)	57.1 (▲8.8)	31.1 (17.1)	6.6 (1.9)
パート	4.1 (▲4.1)	57.8 (▲15.4)	30.7 (15.2)	7.4 (4.4)

図表3：主婦の景況D.I.の推移



2. 主婦の物価観

「現在（2014年）の物価は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」が全体の83.5%（前年差+22.6ポイント）、「安くなった」は0.3%（前年差▲0.6ポイント）となった（図表4）。

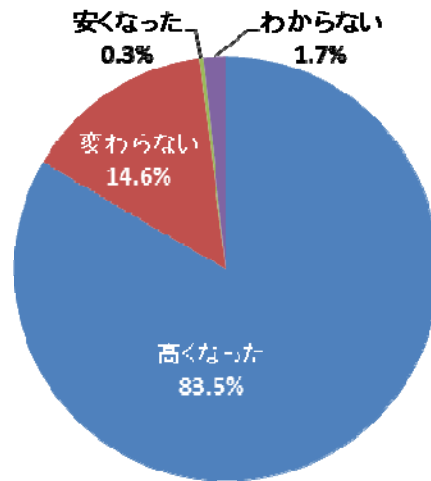
全ての年代・住所・就業形態において、「高くなった」は大幅に上昇した一方、「変わらない」は大幅に低下し、「安くなった」は60歳以上を除く世代でゼロだった（図表5）。

物価D.I.（「高くなった」－「安くなった」の回答率の差）は83.2%ポイント（前年差+23.2ポイント）となった（図表6）。

総務省の消費者物価指数を見ると2014年4月以降、消費税増税および円安による輸入価格の上

昇の影響で、2%超の物価上昇が続いており、主婦の物価観もこれと同じく物価高を強く感じている。

図表4：主婦の物価観（全体）

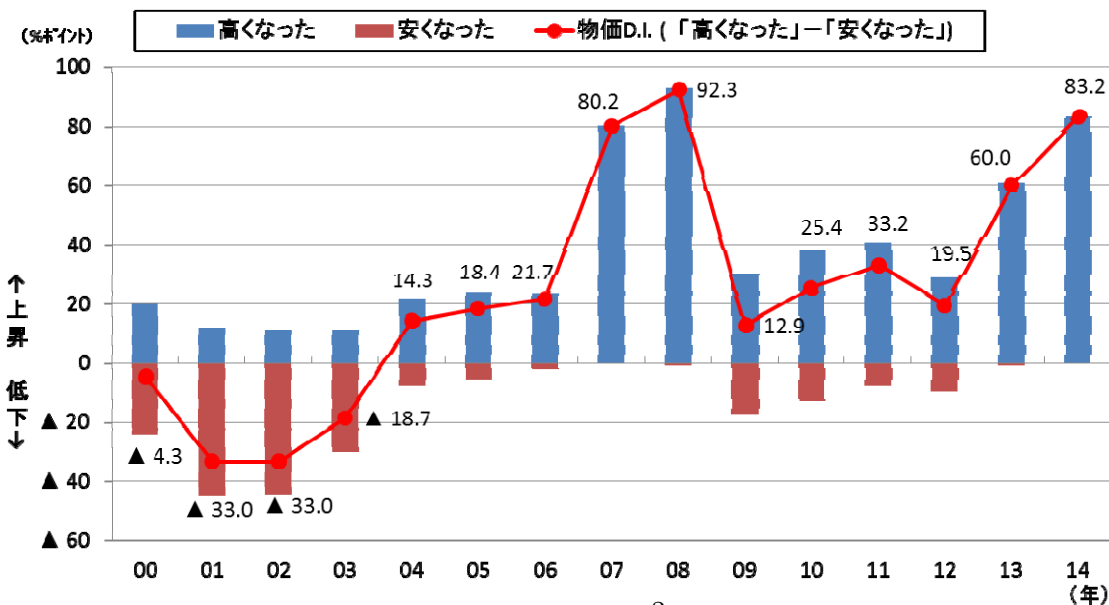


図表5：主婦の物価観（属性別）

	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	83.5 (22.6)	14.6 (▲20.9)	0.3 (▲0.6)	1.7 (▲1.0)
20歳代	77.3 (24.6)	15.2 (▲30.7)	0.0 (0.0)	7.6 (6.2)
30歳代	80.3 (15.8)	19.0 (▲11.6)	0.0 (0.0)	0.7 (▲4.3)
40歳代	84.2 (26.1)	14.5 (▲24.2)	0.0 (▲1.6)	1.3 (▲0.3)
50歳代	85.4 (20.1)	13.1 (▲18.6)	0.0 (0.0)	1.4 (▲1.6)
60歳以上	86.0 (25.5)	11.4 (▲22.7)	1.8 (▲0.5)	0.9 (▲2.2)
岐阜県	83.2 (20.6)	14.9 (▲19.0)	0.4 (▲0.5)	1.5 (▲1.2)
愛知県	84.4 (25.6)	13.5 (▲23.6)	0.0 (▲1.0)	2.1 (▲1.0)
専業主婦	81.5 (30.2)	17.6 (▲26.7)	0.0 (▲1.7)	0.8 (▲1.8)
正社員	81.9 (20.4)	14.6 (▲20.2)	0.7 (0.0)	2.8 (▲0.2)
パート	85.5 (21.5)	13.3 (▲19.6)	0.0 (▲0.6)	1.2 (▲1.2)

(注) 括弧内は、前年差を示す。

図表6：主婦の物価D.I.の推移

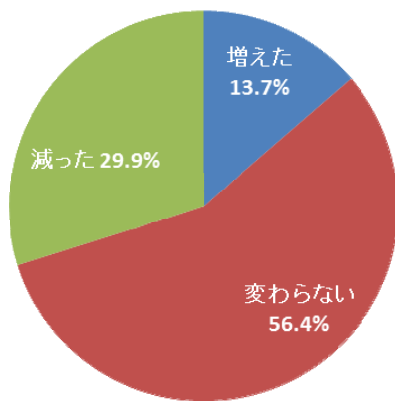


3. 家計の収支

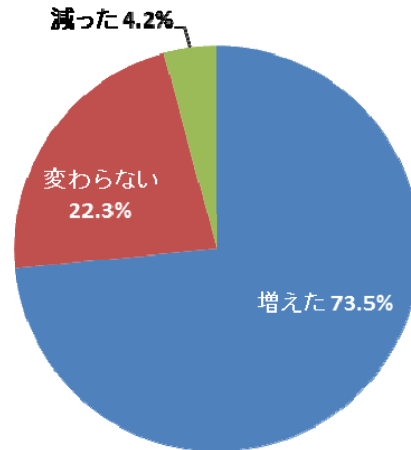
「2014年の家計収入は、2013年と比べてどうなりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の13.7%（前年差+2.1ポイント）、「減った」は29.9%（前年差▲2.5ポイント）となった（図表7）。家計支出についても同様に尋ねたところ、「増えた」は全体の73.5%（前年差+9.9ポイント）、「減った」は全体の4.2%（前年差▲2.4ポイント）となった（図表8）。

アベノミクスを推進する政府による働き掛けで昨年の春闘では賃上げが輸出企業を中心にある程度広がったことから、収入が「増えた」との回答率は上昇している（図表9）。一方、円安に伴う輸入価格の上昇および消費税増税による物価の上昇のなか、支出は「増えた」との回答率が上昇している（図表10）。

図表7：家計の収入（全体）



図表8：家計の支出（全体）



図表9：家計の収入（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	13.7 (2.1)	56.4 (0.5)	29.9 (▲ 2.5)
20歳代	27.0 (10.8)	63.5 (2.7)	9.5 (▲ 13.5)
30歳代	21.1 (▲ 1.4)	62.6 (▲ 0.7)	16.3 (2.1)
40歳代	12.0 (▲ 0.6)	58.8 (0.3)	29.2 (0.3)
50歳代	9.9 (3.9)	55.4 (4.9)	34.7 (▲ 8.8)
60歳以上	7.1 (1.5)	41.1 (▲ 8.5)	51.8 (7.0)
岐阜県	13.3 (3.4)	56.1 (1.6)	30.7 (▲ 4.9)
愛知県	14.3 (▲ 0.2)	56.1 (▲ 2.9)	29.6 (3.0)
専業主婦	17.1 (8.3)	45.3 (▲ 8.2)	37.6 (▲ 0.1)
正社員	14.8 (1.3)	61.3 (2.7)	23.9 (▲ 4.0)
パート	11.8 (0.6)	55.6 (0.3)	32.5 (▲ 1.0)

（注）括弧内は、前年差を示す。

図表10：家計の支出（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	73.5 (9.9)	22.3 (▲ 7.5)	4.2 (▲ 2.4)
20歳代	69.8 (7.6)	28.6 (▲ 5.2)	1.6 (▲ 2.5)
30歳代	76.2 (9.0)	22.4 (▲ 4.5)	1.4 (▲ 4.5)
40歳代	84.5 (12.0)	12.0 (▲ 12.2)	3.4 (0.1)
50歳代	67.5 (10.7)	25.5 (▲ 5.7)	7.1 (▲ 5.0)
60歳以上	60.7 (6.3)	33.9 (▲ 5.3)	5.4 (▲ 1.0)
岐阜県	75.2 (11.8)	21.1 (▲ 9.1)	3.7 (▲ 2.7)
愛知県	71.4 (7.6)	23.7 (▲ 5.6)	4.9 (▲ 2.0)
専業主婦	69.2 (9.4)	25.6 (▲ 9.2)	5.1 (▲ 0.3)
正社員	73.9 (12.8)	22.6 (▲ 7.8)	3.5 (▲ 4.9)
パート	76.3 (8.4)	19.8 (▲ 7.0)	3.8 (▲ 1.5)

（注）括弧内は、前年差を示す。

4. 家計支出の動向

(1) 支出が増えた費目

「2014年の家計支出を考えたとき、2013年より支出が増えた費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「食費」（65.0%）がトップとなり、ついで「光熱・水道費」（45.2%）、「交通・通信費」（37.0%）となった（図表11）。

支出が増えた上位7費目の推移をみると、昨年は円安進行による小麦粉、食用油、乳製品など食品の相次ぐ値上げや、円安に加えて原油価格の高騰から電力料金の引上げにより、「食費」、「衣料費」、「光熱・水道費」が前回から大きく上昇している（図表12）。「家電・家具購入費」を除く他の3費目も前回から上昇した。家計の収入が伸び悩むなか家計の支出が増加している背景には、「食費」、「光熱・水道費」に対する支出の増加があるようだ。

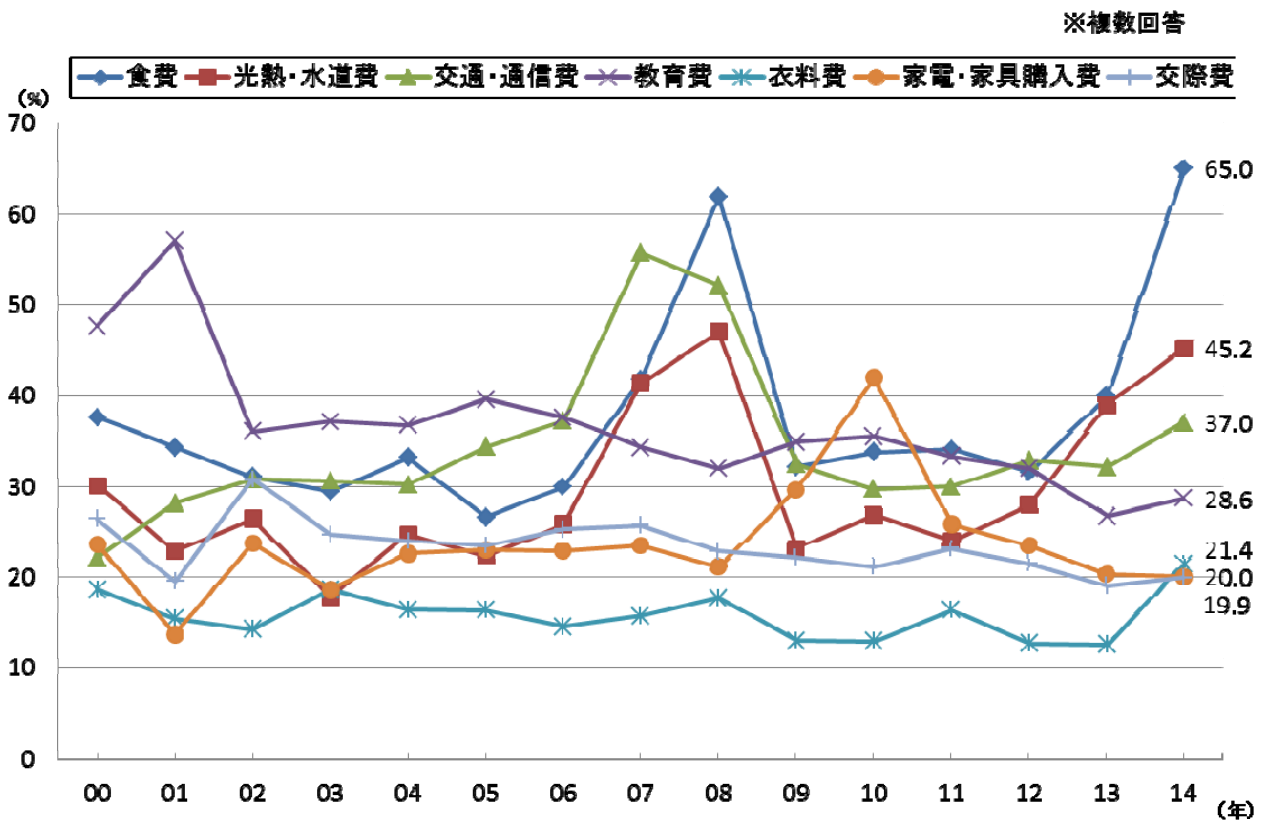
図表11：支出が増えた上位7費目（属性別）

	※複数回答 (%)													
	食費	光熱・水道費	交通・通信費	教育費	衣料費	家電・家具購入費	交際費	食費	光熱・水道費	交通・通信費	教育費	衣料費	家電・家具購入費	交際費
全体	65.0	(25.0)	45.2	(6.2)	37.0	(4.8)	28.6	(1.9)	21.4	(8.8)	20.0	(▲0.3)	19.9	(0.9)
20歳代	66.1	(14.0)	35.5	(▲2.9)	40.3	(18.4)	1.6	(▲5.2)	22.6	(13.0)	29.0	(9.8)	24.2	(14.6)
30歳代	77.9	(26.6)	37.9	(▲0.2)	29.7	(▲2.2)	42.1	(2.3)	31.7	(7.8)	14.5	(▲4.1)	9.7	(▲1.8)
40歳代	63.3	(20.4)	46.7	(5.4)	44.1	(7.0)	57.6	(6.3)	24.0	(9.4)	16.2	(▲1.3)	12.2	(▲2.4)
50歳代	55.8	(22.3)	46.6	(7.9)	41.8	(8.3)	10.1	(0.7)	18.8	(9.4)	25.5	(0.9)	26.4	(0.2)
60歳以上	68.2	(41.8)	54.5	(18.1)	20.9	(▲6.4)	0.9	(▲4.1)	6.4	(1.4)	20.0	(▲1.5)	34.5	(5.6)
岐阜県	63.4	(23.5)	46.1	(6.0)	38.2	(3.7)	28.0	(2.4)	21.2	(8.4)	18.8	(▲0.8)	20.1	(1.9)
愛知県	67.9	(26.5)	44.3	(6.1)	36.1	(7.9)	29.6	(2.8)	21.1	(8.2)	22.5	(1.1)	18.9	(▲1.1)
専業主婦	66.4	(32.2)	44.2	(9.1)	26.5	(2.2)	24.8	(5.0)	19.5	(8.7)	15.9	(▲4.8)	17.7	(▲0.3)
正社員	65.2	(21.6)	44.4	(1.5)	35.1	(4.0)	23.3	(5.0)	20.1	(6.3)	18.6	(0.3)	22.6	(4.6)
パート	64.4	(25.2)	46.4	(10.2)	42.8	(6.6)	33.8	(▲4.4)	23.7	(11.7)	21.9	(▲0.4)	18.3	(▲0.5)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。

(注2) 括弧内は前年差を示す。

図表12：支出が増えた上位7費目（全体）の推移



(2) 支出が減った費目

「2014年の家計支出を考えたとき、2013年より支出が減った費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「レジャー費」(39.2%)がトップとなり、ついで「外食費」(31.3%)、「衣料費」(29.7%)となった(図表13)。

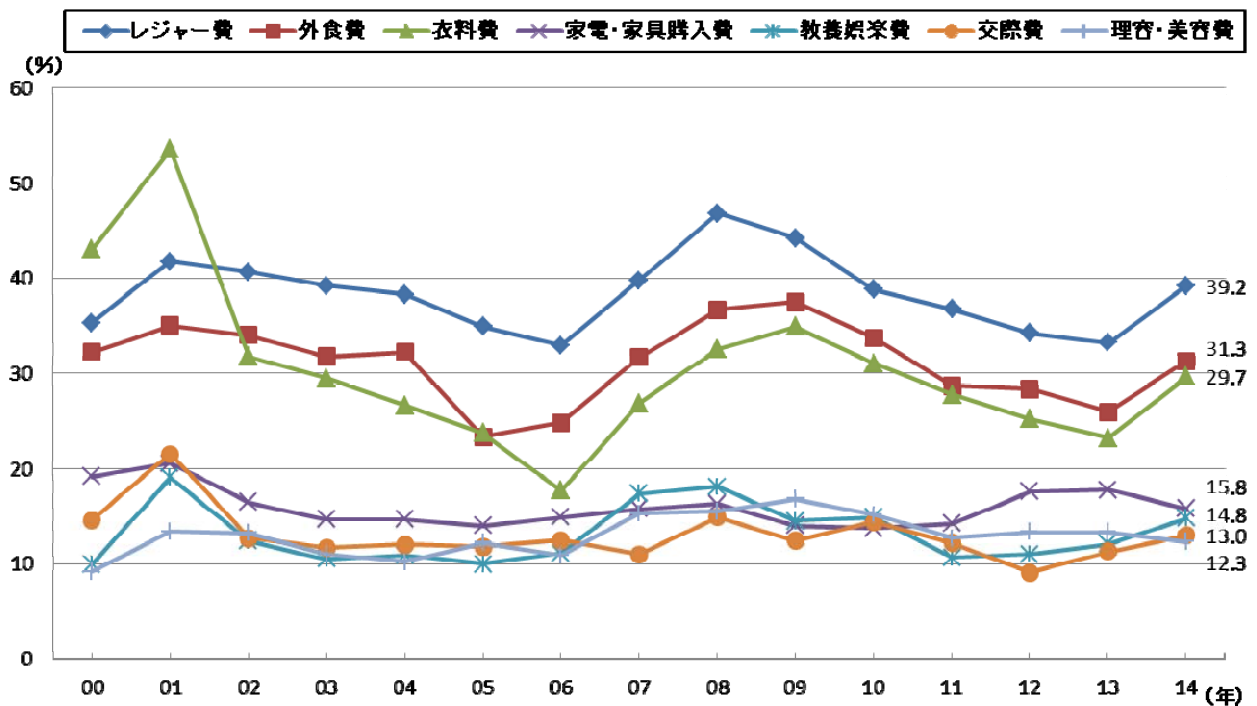
支出が減った上位7費目の推移をみると、上位3費目はいずれもリーマンショック直後の2010年の水準近くまで上昇しており、2014年の消費税増税や輸入価格の上昇に伴う物価上昇の影響の大きさがうかがえる(図表14)。

図表13：支出が減った上位7費目（属性別）

	※複数回答(%)						
	レジャー費	外食費	衣料費	家電・家具購入費	教養娯楽費	交際費	美容・美容費
全体	39.2 (5.9)	31.3 (5.3)	29.7 (6.4)	15.8 (▲2.0)	14.8 (3.8)	13.0 (3.9)	12.3 (▲1.0)
20歳代	28.6 (2.8)	20.4 (▲0.6)	36.7 (9.3)	8.2 (▲11.2)	6.1 (1.7)	6.1 (▲2.8)	10.2 (▲1.1)
30歳代	36.5 (▲1.0)	24.3 (▲2.8)	20.0 (10.6)	21.7 (2.9)	8.7 (▲1.1)	12.2 (2.4)	13.0 (▲4.7)
40歳代	47.4 (11.8)	39.3 (10.9)	25.0 (4.4)	11.7 (▲8.4)	14.3 (5.0)	12.8 (3.0)	13.3 (▲0.1)
50歳代	34.4 (4.5)	30.1 (6.0)	29.5 (3.6)	19.1 (2.4)	22.4 (7.0)	11.5 (2.3)	13.1 (2.8)
60歳以上	40.2 (4.8)	30.9 (3.8)	47.4 (12.0)	14.4 (0.9)	13.4 (3.4)	20.6 (14.3)	9.3 (▲6.3)
岐阜県	39.2 (5.3)	32.9 (6.1)	28.2 (4.1)	16.1 (0.1)	16.8 (6.5)	13.4 (4.7)	14.7 (1.1)
愛知県	39.1 (7.4)	28.4 (3.2)	31.7 (10.0)	16.0 (▲4.9)	11.9 (▲0.8)	12.3 (2.1)	9.5 (▲3.1)
専業主婦	35.4 (8.4)	25.0 (3.7)	34.4 (6.3)	12.5 (▲4.4)	14.6 (5.1)	15.6 (3.7)	6.3 (▲3.8)
正社員	38.3 (5.2)	26.9 (2.4)	32.6 (6.5)	17.6 (▲1.2)	14.1 (4.1)	14.1 (5.5)	14.5 (0.6)
パート	39.7 (5.1)	36.0 (6.4)	25.7 (8.0)	15.4 (▲1.9)	15.1 (2.8)	11.3 (2.9)	13.0 (▲0.8)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。
 (注2) 括弧内は前年差を示す。

図表14：支出が減った上位7費目（全体）の推移



(3) 高額商品の購入について

2014年に1商品10万円以上する高額商品の購入について質問し、「購入した」と回答した人に「具体的にどんなお買物をしましたか」と尋ねたところ、「国内旅行」が全体の35.4%と最も多く、次いで「自動車の購入・維持」(31.5%)、「一般家電」(28.1%)となった。「国内旅行」が前年に続き1位だったものの、50歳代を除いて全世代で低下した。一方、2位の「自動車の購入・維持」は30歳代、60歳以上を除く世代で上昇した。(図表15)。

上位5品目の推移をみると、図表にはないが2013年は消費税増税前の住宅購入・リフォームの駆け込み需要の影響から5位に「住宅の購入・維持」があがっていたものの、2014年は「家具・インテリア」に変わった(図表16)。

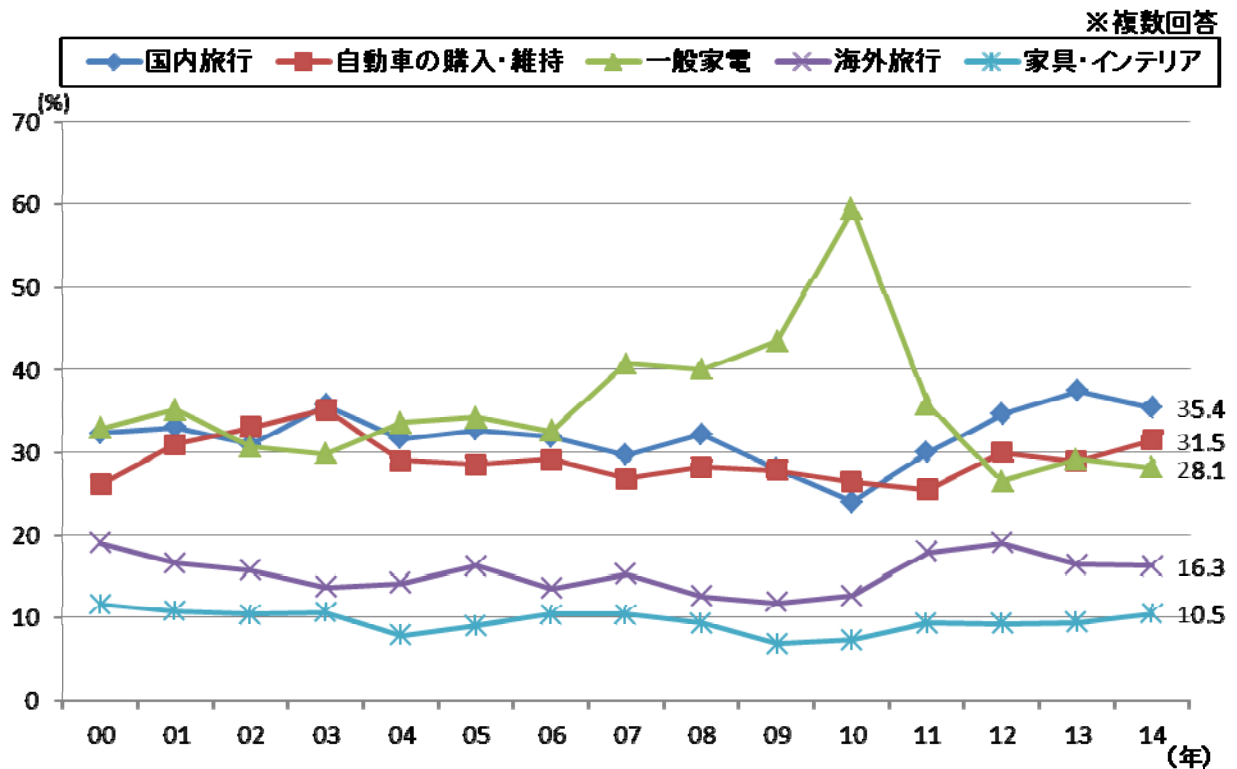
図表15：購入した高額商品（上位5品目）（属性別）

	※複数回答 (%)				
	国内旅行	自動車の購入・維持	一般家電	海外旅行	家具・インテリア
全体	35.4 (▲2.0)	31.5 (2.6)	28.1 (▲1.0)	16.3 (▲0.1)	10.5 (1.1)
20歳代	14.0 (▲3.0)	27.9 (13.0)	44.2 (10.2)	53.5 (4.6)	34.9 (9.4)
30歳代	46.6 (▲9.0)	37.5 (▲6.9)	15.9 (▲10.5)	10.2 (▲0.9)	13.6 (3.9)
40歳代	33.8 (▲3.6)	37.4 (5.0)	28.1 (0.8)	7.2 (▲2.2)	5.8 (2.2)
50歳代	36.3 (2.5)	32.6 (8.5)	32.6 (2.5)	16.3 (▲1.0)	7.4 (▲0.1)
60歳以上	36.1 (▲3.1)	9.8 (▲15.5)	24.6 (▲5.8)	19.7 (7.0)	6.6 (▲6.1)
岐阜県	35.5 (0.8)	34.0 (3.0)	25.3 (▲4.6)	13.6 (▲1.9)	8.7 (▲1.6)
愛知県	35.3 (▲5.6)	28.9 (4.0)	31.0 (1.7)	19.8 (1.0)	13.4 (5.7)
専業主婦	33.3 (▲16.0)	26.7 (2.8)	26.7 (1.3)	22.7 (1.8)	12.0 (3.0)
正社員	34.7 (0.3)	25.3 (1.7)	30.6 (▲0.2)	25.3 (0.7)	14.7 (2.4)
パート	36.5 (▲0.1)	37.9 (2.3)	25.6 (▲3.2)	7.4 (0.6)	5.9 (▲0.9)

(注1) 網掛けは、各属性別における、最も回答率の高い商品。

(注2) 括弧内は前年差を示す。

図表16：購入した高額商品（上位5品目）（全体）の推移



5. 主婦の買物場所

主婦は実際に商品をどこで購入しているのか。主婦の買物場所（11業態）の利用頻度を1年間の平均利用回数に換算した（図表17）。

主婦が最もよく利用する店は従来どおり「スーパー」で、およそ2.6日に1度（1年間に140.8回）の頻度で利用されている。

今回調査では、「コンビニエンスストア」の利用回数が年9.2回伸びており、目立って大きかった。2013年に利用回数が大きく上昇した「ドラッグストア」は減少しているものの3位のままである。また、「ディスカウントストア」の利用回数は上昇し、「ホームセンター」を抜いて5位になった。

年代別では、60歳以上の世代以外で「コンビニエンスストア」と「ディスカウントストア」の利用回数が上昇している。また、「通信販売」の利用は特に20歳代、30歳代で顕著だが、他世代でも回数が増加している。若い世代に限らず、インターネットやスマートフォンからモノを注文することが当たり前になりつつあることがうかがえる。

図表17：買物場所の年間平均利用回数

(単位「利用頻度」を除く)：回/年)												
	スーパー	コンビニエンスストア	ドラッグストア	複合型SC	ディスカウントストア	ホームセンター	100円ショップ	通信販売	商店街	百貨店	家電量販店	
全体	140.8 (▲4.7)	71.4 (9.2)	41.0 (▲1.6)	24.1 (▲0.4)	21.1 (4.9)	15.1 (▲2.3)	14.8 (▲0.8)	10.7 (2.0)	6.9 (▲1.5)	6.8 (▲1.0)	4.6 (▲0.1)	
20歳代	103.8 (3.2)	117.3 (37.7)	43.6 (▲5.5)	31.8 (▲1.7)	28.5 (7.8)	10.8 (3.2)	16.9 (5.0)	14.3 (5.1)	1.2 (▲1.6)	8.6 (0.9)	4.9 (▲1.2)	
30歳代	114.4 (▲21.4)	88.6 (19.6)	43.4 (0.4)	24.7 (▲1.2)	20.8 (5.8)	11.3 (▲3.5)	17.4 (0.8)	18.2 (1.0)	4.3 (▲0.9)	4.5 (0.5)	4.4 (0.1)	
40歳代	151.6 (▲0.4)	70.7 (2.2)	44.6 (▲0.4)	22.3 (▲0.3)	25.4 (8.4)	16.6 (▲1.7)	15.5 (0.1)	8.8 (0.9)	4.2 (1.2)	3.6 (▲0.4)	5.4 (0.6)	
50歳代	160.2 (0.6)	56.7 (4.3)	36.8 (▲4.1)	26.2 (0.2)	20.1 (4.7)	16.0 (▲0.1)	11.9 (▲2.9)	9.0 (2.0)	10.3 (▲0.5)	10.8 (▲1.1)	4.3 (▲0.4)	
60歳以上	139.3 (▲7.5)	48.5 (▲0.7)	35.0 (0.1)	17.3 (▲0.5)	8.9 (▲5.6)	17.5 (▲7.2)	15.2 (▲3.4)	5.5 (2.5)	13.2 (▲9.1)	9.5 (▲3.3)	3.9 (0.1)	
岐阜県	131.9 (▲6.0)	68.2 (6.8)	42.6 (0.2)	23.7 (▲1.8)	24.2 (6.6)	15.7 (▲1.9)	15.0 (▲0.4)	10.2 (1.4)	7.2 (▲2.4)	5.2 (▲0.6)	4.9 (0.0)	
愛知県	152.6 (▲6.3)	77.1 (14.0)	38.4 (▲5.7)	24.5 (0.9)	14.6 (0.6)	13.9 (▲2.9)	14.3 (▲2.2)	11.9 (3.9)	6.5 (▲0.5)	9.3 (▲1.6)	4.3 (▲0.2)	
専業主婦	134.7 (▲24.3)	68.1 (20.0)	44.4 (▲0.3)	29.5 (4.2)	19.1 (3.1)	16.6 (▲3.3)	15.9 (▲1.1)	12.0 (3.2)	13.2 (5.2)	11.0 (1.6)	5.0 (▲1.4)	
正社員	121.9 (▲1.7)	86.1 (8.0)	36.2 (▲3.1)	24.4 (▲0.2)	21.5 (6.1)	14.2 (▲2.5)	12.8 (▲1.6)	11.8 (0.7)	6.6 (▲2.3)	6.9 (▲2.6)	4.2 (0.4)	
パート	163.8 (2.2)	60.8 (7.8)	43.4 (▲2.5)	22.9 (▲1.1)	22.2 (5.3)	15.6 (▲0.7)	16.7 (0.9)	9.2 (2.8)	5.3 (▲2.4)	5.4 (▲0.2)	5.2 (0.2)	
利用頻度 (注1)	2.6 (0.1)	5.1 (▲0.8)	8.9 (0.3)	15.1 (0.2)	17.3 (▲5.2)	24.2 (3.2)	24.6 (1.3)	34.3 (▲7.8)	53.1 (9.4)	53.3 (6.7)	79.8 (0.9)	

(注1)「利用頻度」とは、「全体」において、それぞれの業態に訪れる間隔を日数単位で表したものを示す。スーパーであれば2.6日に1回利用するとの意味。

(注2)括弧の中の数字は、前年利用回数および前年利用頻度との差を示す。

以上